

フィデル・カストロ引退と ラウル・カストロ新体制の顔ぶれ

山岡加奈子



ラウル・カストロを首班とする新指導部の顔ぶれ。2008年2月24日政権発足時、全国人民権力議会議場にて。前列左から、ラウル・カストロ、フアン・アルメイダ、ホセ・ラモン・マチャド、アベラルド・コロメ、カルロス・ラヘ、エステバン・ラソ、フリオ・カサス。後列左から、国家評議会メンバーのロベルト・フェルナンデス＝レタマール、イリス・ベタンクール＝ティエス、フリオ・マルティネス＝ラミレス、スリーナ・アコスタ＝ブルック。
(© AP Images)

2008年2月19日、フィデル・カストロは共産党機関紙『グランマ』に、国家評議会議長と革命軍最高司令官の地位を退く、と発表した。発表は、立法府全国人民権力議会(国会)が総選挙後初めて召集され、新たに選ばれた議員の中から、国家評議会の構成員およびその議長が選出される5日前に出された。そして2月24日の国家評議会で、1976年に国家評議会が設立されて以来30年以上にわたってフィデルが務めてきた国家評議会議長の地位は、それまで同第一副議長であった実弟ラウル・カストロに移った。これで制度上は、フィデル・カストロは引退し、ラウル・カストロ新政権が誕生したことになる。

しかしラウル新政権誕生に伴い、国家評議会に新たに登用され、昇進した人々は、国外の一部の

期待に反して、きわめて保守的な顔ぶれであった。とくに前職よりも昇進したのは、すべてラウルと同世代の、カストロ兄弟に忠実な革命闘争の同志であり、古参の軍人であり、指導層の中でも保守派として知られた人々である。

ラウルは2007年7月のモンカダ兵営襲撃記念日での演説で、国民の間に広く議論の場を設けることを提案し、同年10月までの3カ月間で、労働組合を中心に21万5000を超える職場集会が開かれた。国営企業の非効率や公務員の賃金の低さ、国民の生活水準の低さなどが率直に議論されたと伝えられる。また今年2008年2月に入ってから、文化大臣アベル・プリエトが知識人や芸術家などを集めた集会を組織、同様に経済社会の問題点を率直に議論する場を設けた。

ただ、フィデル・カストロは1990年代から経済改革と所得格差の増大に反対してきたと伝えられ、フィデルが存命の現在は、たとえラウルが改革に前向きな考えをもっているとしても、大胆な改革の実行は難しいだろう。そのことを裏づけるように、今回の人選では新政権誕生以前よりも保守派が台頭した。彼らが中心となって、社会主義計画経済の枠組みの中で経済改革を行うことが予想される。3月末に新政権は、いくつかの電化製品とコンピューターの外貨店で購入、携帯電話加入および観光ホテル宿泊を一般のキューバ人に許可すると発表した。これは部分的な改革とはいえるが、経済構造を大幅に変えるものではなく、また国民の生活水準を大きく上げるものでもない。

いずれにしても、フィデル、ラウル、および今回登用された革命第一世代の軍人たちは、今年69歳になるコロメ氏を除き、いずれも70代以上の高

齢である。中期的には安定した体制が見込めるものの、その後はもっと若い世代の指導者を登用せざるを得ないだろう。以下に今回国家評議会副議長以上に昇進あるいは留任した指導者たちの経歴を挙げる。なお、共産党第一書記はまだフィデルのままである。またフィデルが退任すると表明した革命軍最高司令官の後任は決まっていない。フィデルは2008年2月19日の引退声明では、今後は「思想の闘い(Batallas de Ideas)の一兵卒として」活動すると言明している。

また最後のカルロス・ラヘ氏は実利主義者で経済改革派とも伝えられ、今回の人事の発表前には、海外では彼が第一副議長に選ばれるのではないかとの観測もあった。今回ラヘ氏は副議長留任にとどまっているが、今後も国家評議会議長の次の候補として名前が挙がり続けると思われる。

(4月21日記)

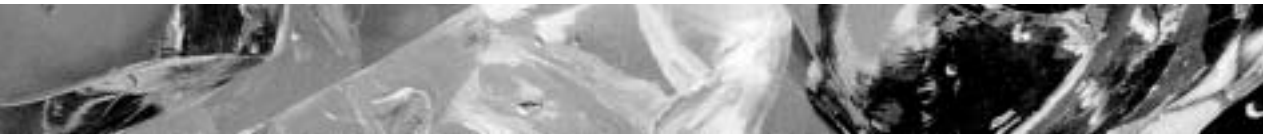
昇進した人々

ラウル・カストロ＝ルス (Raúl Castro Ruz)

1931年生まれ。国家評議会議長(Presidente del Consejo de Estado)、閣僚評議会議長(Presidente del Consejo de Ministros)に就任。フィデル・カストロの実弟。10代のころに人民社会党(Partido Socialista Popular: PSP、キューバ共産党)の党員となった。モンカダ兵営襲撃、グランマ号による上陸など、革命当初から兄フィデルの7月26日運動(Movimiento de 26 de Julio)に参加。東部第二戦線「フランク・パイ」の指揮官として活躍した。1976年の創設時から国家評議会第一副議長。同年革命軍将軍(General)に昇格。1959年10月から2008年2月まで国防大臣(Ministro de las Fuerzas Armadas Revolucionarias: MINFAR)。革命軍副司令官。共産党第二書記(Segundo Secretario del Partido Comunista de Cuba: PCC)も兼任している。

ホセ・ラモン・マチャド＝ヴェントウラ (José Ramón Machado Ventura)

1930年生まれ。国家評議会第一副議長(Primer Vicepresidente del Consejo de Estado)に就任。医師でもあり、ハバナ大学医学部在学中の1952年に7月26日運動に参加した。革命の戦闘ではラウル・カストロとともにフィデルの副官を務めた。ラウルとともに東部第二戦線「フランク・パイ」を組織した。1960～1967年まで保健大臣。1965年の共産党中央委員会の設立に参画。1970年の砂糖1000万トン生産大計画では、「マチャドの指揮したマタンサス州だけが目標(100万トン)を達成した」と、今回の指名を発表する演説の中でラウルは評価している。1974年の第1回共産党大会から政治局員。1976年の創設時から国家評議会評議員。同年から全国人民権力議会(国会)議員。



フリオ・カサス＝レゲイロ (Julio Casas Regueiro)

1936年生まれ。国防大臣，国家評議会副議長に就任。前職は第一国防副大臣。カストロ兄弟と革命を戦った同志であり，東部第二戦線「フランク・パイソ」を率いた。1959年の革命成功と同時に，新革命体制の警察機構(Policia Nacional Revolucionaria)の創設に関わる。1961年の亡命キューバ人によるプラヤ・ヒロン(ピッグズ湾)侵攻に応戦した。1981年から全国人民権力議会(国会)議員。1986年の第4回共産党大会から党政治局員。1998年から党中央委員会委員および国家評議会評議員。ラウルはカサスを指名するに当たり，軍の「経済的側面」での改革に大きく貢献したと評価している。

アベラルド・コロメ＝イバラ (Abelardo Colomé Ibarra)

1939年生まれ。国家評議会副議長に就任。1955年に7月26日運動に加わり，1956年のサンティアゴ・デ・クーバ蜂起に参加，翌57年に反乱軍(Ejército Rebelde)の一員になる。1958年に同軍内の司令官(Comandante)に昇格。現在，内務大臣(Ministro del Ministerio de Interior: MININ)，共産党中央委員会委員，共産党創立メンバー，革命軍(Fuerzas Armadas Revolucionarias: FAR)の将軍(General)を兼任。革命軍および内務省でキャリアを積む。1970年に軍防諜部の最高責任者。1975年にアンゴラ派遣軍の総司令官。アンゴラから帰国後国防副大臣に就任。

国家評議会副議長職に留任した人々

ファン・アルメイダ＝ボスケ (Juan Almeida Bosque)

1927年生まれ。1952年3月から7月26日運動に参加。モンカダ兵営襲撃およびグランマ号上陸作戦に参加。1958年にシエラ・マエストラ山地でのマリオ・ムニョス第三戦線を組織。1965年より共産党中央委員会委員。政治局員。革命軍の司令官(Comandante)。大衆組織「キューバ革命闘士連合」会長。

エステバン・ラソ＝エルナンデス (Juan Esteban Lazo Hernández)

1944年生まれ。政治局員。共産党中央委員会委員。1981年より全国人民権力議会(国会)議員。1992年から国家評議会副議長。国家評議会評議員唯一のアフリカ系。

カルロス・ラヘ＝ダヴィラ (Carlos Lage Dávila)

1951年生まれ。医師。1975年に大学生連盟(FEU)議長。1978年に共産党青年同盟(UJC)全国局メンバー，1982年に同第一書記。エチオピアへの医療協力団に参加。1986年からフィデル・カストロの顧問グループに入る。1990年から閣僚評議会の執行委員会の書記局で働く。1976年から全国人民権力議会(国会)議員。

(出所) Granma Internacional ウェブ版他から筆者作成 (<http://www.granma.cu/espanol/2008/febrero/lun25/Miembros.html> 2008年3月13日閲覧)

(やまおか・かなこ / 地域研究センター副主任研究員)